2018(平成30年)5月25日発行　発行元:日本山岳会栃木支部　〒329-0434 栃木県下野市祇園 5-12-10　前田方

JAC -Tochigi
2018 年 5 月

# 栃木支部報

第11号

目次

p 1　支部報の発行に寄せて －２０１８年－
p 2- 5 「山の日」記念全国大会連携イベント
p 5- 7 支部山行・行事の記録
p 8　ＹＯＵＴＨ栃木：雪崩勉強会
p 9-10 支部・マスターズ・ユース栃木年度記録／計画
p 11-12 ＹＯＵＴＨ栃木：虹芝寮スプリングミーティング

## 支部報の発行に寄せて　－2018年－

栃木支部長　　渡邉 雄二

昨年（平成 29 年）3 月 27 日 、本県の那須岳で登山界に衝撃的な遭難事故が発生した。栃木県高等学校体育連盟主催の春山安全登山講習会にて雪崩事故が発生し、講習会参加校の生徒及び引率教員がこの雪崩に巻き込まれ、生徒 7 名、教員 1 名が死亡し、40 名が重軽傷を負った。事故発生から 1 年が経ったが、改めて亡くなられた生徒と教員の皆様には心から哀悼の意を表するとともご遺族の皆様に心からお悔やみ申し上げる。

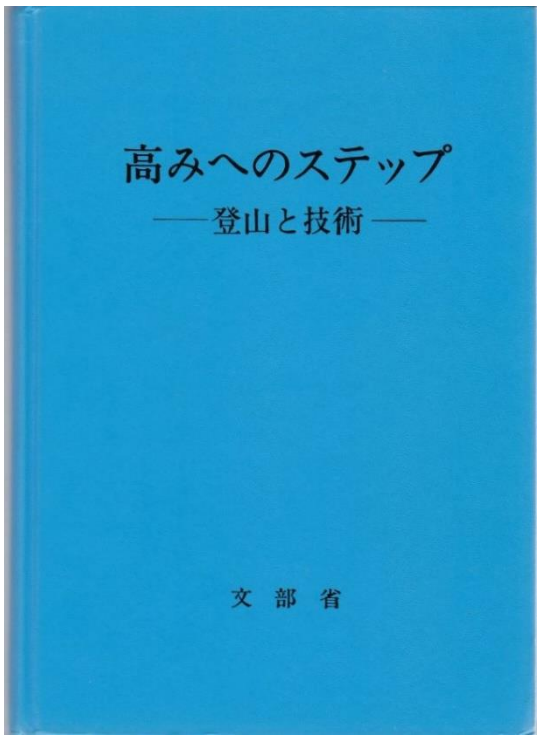
栃木県教育委員会は、事故発生後直ちに「那須雪崩事故検証委員会」を設置し、独立した第三者の立場で、事故の原因、状況のみならず、事故の原因を含む状況や課題について調査・検証を行い、事故の再発防止のための提言をまとめ、昨年 10 月に「平成 29 年 3 月 27 日那須雪崩事故検証委員会報告書」を提出した。約 200 頁の膨大な内容を精読すると、高等学校の安全登山活動に関する指摘ではあるが、私たち社会人の岳人としても肝に銘ずる内容が多々あることを申し添えたい。是非手にとって読んで欲しい。

日本山岳会も遭難事故対応で苦慮していることは月報の「山」で周知されている。本支部でも安全登山のための計画書の作成、提出に関して啓蒙しているところである。

まず、安全登山の第一歩は「登山計画書」の作成である。「登山届」と「登山計画書」は基本的に別物である。計画書は、登山の学びであり、山行の安全性を高め、楽しみをより深くするものである。そこには、登山に対する個々人の思想が盛り込まれているので、その登山計画の作成過程から最終目的を窺うことができるものである。計画書は、単なる予定表でも、事故が発生したときの単なる捜索資料ではない。所謂「登山届」は事故発生時の捜索資料としての内容が記載されていれば良いのである。

登山は「異常環境下」で行うスポーツであるので、「山登りは危ない」と言う意識を常に持っていることが大切である。自然と人間との関係はどんな時代でも変わらないが、人間の意識はいつもご都合主義で、しかもヒューマンエラーを内在している。「登山計画書」の意義を改めて考え直したいものである。

（平成 30 年 4 月記）




「たまには古典的教科書に
目を通すことも新鮮です。」

第2回「山の日」記念全国大会 in 那須 2017

# 「山の日」記念全国大会連携イベント

栃木県では８月に第２回「山の日」記念全国大会が開催され、その連携イベントとして栃木支部で「山の講演会」と「親子登山教室」を開催した。その内容は、とちぎＴＶで報道された。

また、栃木県「山の日」協議会主催で「安全のためのファミリー登山教室 in 那須」を栃木県山岳三団体が、安全な山登りの楽しみ方や自然の素晴らしさを体験する登山教室を９月３日に実施する予定であったが、台風通過による強風のため中止となってしまった。

# 公益事業：第１１回「山」の講演会
# 演題：『山のグレーディングと安全登山』

●日時：平成２９（２０１７）年６月２５日（日）　１４:００～１５:４５
●会場：コンセーレ（栃木県青年会館）
●講師：原 一樹 氏（前長野県山岳遭難防止対策協会 書記）
●主　催：(公社) 日本山岳会栃木支部
　共　催：(一財) 栃木県青年会館　　講　演：栃木県山岳連盟
●参加者：７６名　(内訳：栃木支部会員　１７名，一般参加　５５名，報道関係　４名)

●講演概要

主な登山ルートの技術的難易度と必要な体力度を登山者に提供することで、「自分の力量にあった山選び」を促し、山岳遭難事故の防止に役立てることを目的とした「山のグレーディング」について、その狙いと内容について解説した。

「山のグレーディング」は平成 26 年に長野県でスタート、その後新潟県・山梨県・静岡県・岐阜県・群馬県が作成、現在 6 県で設定されている（546 ルートを評価、うち日本百名山 43 座（110 ルート））。

「危ないところにいると危機意識がない人がいる。意識・体力・技術の面で自分に合った山を選んでほしい」と訴えた。

講演会の様子

前田 文彦

■講演内容

［事故の現状］

長野県の遭難は下山中，60 歳代，滑落・転落・転倒等が多く、また晴れの日が多い（気象遭難ではない）。また遭難年齢分布率÷登山年齢分布率から“遭難のしやすさを求めてみると、20 代～30 代（0.29～0.30）に対し、60 代 1.74，70 代 3.31 であり、5～11 倍の高率であることも示された。

［グレーディング作成に至った経緯］

長野県で平成 21 年から「遭難件数」が４年連続して史上最多記録を更新。平成 21 年から平成 25 年までの登山者数の増加 1.4 倍に対し遭難件数の増加は 1.73 倍であり、登山者数の増加のみに遭難の

増加要因を求めることができないことがわかった。さらに、遭難ピーク年代が平成 5 年までの 20 歳代から平成 10 年以降の 50～60 歳代に明らかに変化していることが示された。この一つの要因として、平成 5 年～10 年の間にあった「中高年を中心とした百名山ブーム」が上げられる。

横尾で登山者との実際の話からわかったこと。

① 中高年登山者の中には体力的に無理な山に来ている方がいる。
② 初心者の中には登山に関する予備知識がなく、登る前から遭難している人も・・。
③ 一歩間違えば「命」の危険もある、という「危機意識」を持たない人が結構いる・・。

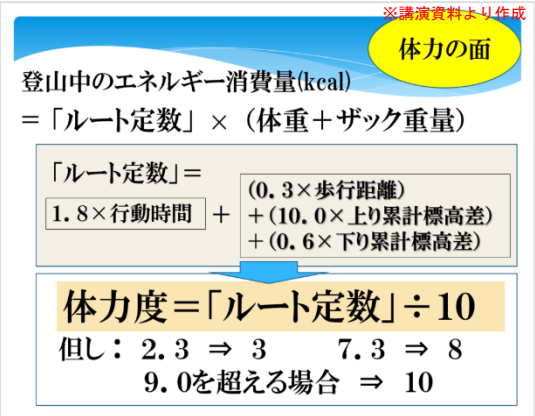
⇒ 今の自分に見合った山を選んでいない！！以前は槍ヶ岳、穂高岳といえば何も説明しなくても、厳しい山と、皆が認識していた。今は情報提供しないと危険と分からない人が増えた！

⇒「個々の山岳ルートを評価し分かりやすくお伝えする」（＝山のグレーディング）こういう物が今必要な時代になった。

［グレーディングの内容］

“体力の面”と“技術の面”から山岳ルートを評価し、グレーディングを行い、縦軸（体力度）と横軸（技術的難易度）のマップ上で個々の山岳ルートの“位置づけ”をわかりやすく示す。

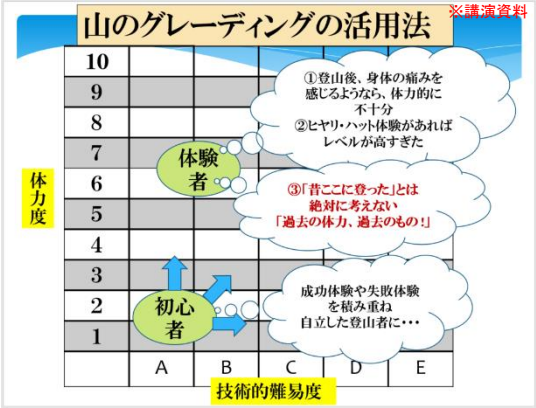
・体力の面：鹿屋体育大学山本教授の研究成果である「ルート定数」を使わせていただいた。「ルート定数」はそのルートの標準行動時間・歩行距離・上り累計標高差・下り累計標高差から計算できる。「ルート定数」を 10 で割り（小数点以下切り上げ，9.0 を越える場合は 10 として）、1～10 の 10 段階の体力度評価とした。




・技術の面：地区山岳遭難防止対策協議会，県警察救助隊，山岳団体関係者などからヒヤリングを行い、A（易）からE（難）の 5 段階で技術的難易度評価とした。

［グレーディングの使い方］

登ろうとする（もしくは登った）山岳ルートのグレーディング評価を知り、自身の体力・技術と照らし合わせることで、ルートとのミスマッチを防ぎ、より安全な登山を計画実行することができる。




孫子の兵法にある「彼を知らず己を知らざれば戦うごとに殆(あや)うし」・「彼を知り己を知れば、百戦して殆うからず」のとおり、彼を知り己を知り体力・技術の面で合った山を選んでほしい。

［今後の進化］

目標＝日本の山岳地図を初心者にも分かり易いものに変える。現在のグレーディングの課題は技術的難易度がその山岳ルート全体の難易度で表示され、ルート上での難易度の高い場所がわからない（スイスやイタリアでは、一目で登山道を細分化した難易度が分かるようになっている）。

⇒ コースタイム・ピッチごとの技術的難易度評価を行い、長野県 102 ルートのピッチマップを作成し、ヤマレコと連携して見られるようにした。

## 栃木県の『山のグレーディング』

栃木県では栃木県山岳遭難防止対策協議会が、第２回「山の日」記念全国大会に合わせて「山のグレーディング」を作成し公開しました。日本山岳会栃木支部も構成員として作成に協力しています。

ＵＲＬ：
www.pref.tochigi.lg.jp/d04/yama/yama.html

※平成３０年度も作業部会を設置し、登山ルートの追加など含めて、更新し発表する予定です。

# 公益事業：第６回日光光徳「親子登山教室」

美しく雄大な自然にふれながら、親子の絆を深め、他人との協働と日光山系（大真名子山）登山による自然体験を通して、心身ともにたくましく自立する青少年の人格形成の一助とする。

【開催日】　平成２９年７月２２日(土)～２３日(日)　１泊２日
【開催地】　栃木県日光市　学習院日光光徳小屋 及び 山王峠／大真名子山（２３７５ｍ）
【主　催】　日本山岳会栃木支部　　【共　催】　栃木県山岳連盟
【後　援】　栃木県教育委員会・日光市教育委員会・学習院山桜会

仲畠 正子

◆７月２２日（土）　曇り一時雷雨
　９：３０～１０：００ 光徳駐車場にて受付
１０：３０～ 光徳小屋着／開会式
１０：４５～ 昼食，荷物の整理
１２：２０～１３：２０ 山王峠ハイキング（雨中断）
１５：００～ 夕べの集い・夕食準備
１７：００～ 夕食，後片付け並びに明日の朝食準備
１９：３０～２０：００ 講話
２１：００　就寝

◆７月２３日（日）　晴れ時々曇り
　４：００～ 起床，朝食準備，朝食，部屋の清掃
　６：００　光徳小屋発
　６：１５～　６：３５ 梵字駐車場（準備体操）
１０：５５～１１：３０ 大真名子山山頂，昼食
１５：００～１５：１０ 梵字駐車場（整理運動）
１５：２０～１５：３０ 光徳駐車場閉会式，解散

平成２４年に開始された親子登山教室は、今年第６回目を迎えることができた。今回は親子１２組、２７名、講師２名、栃木支部スタッフ１０名で実施した。２２日、１０時には全員が光徳駐車場集合、光徳小屋まで荷物を持って移動し、開会式を行う。

昼前より雨が降り雷も鳴り始め。山王峠ハイキング１１時５０分集合の予定を雨が止むまで小屋で待機する。雨も小止みになったので準備体操をして、小学１年生の親子を先頭に低学年から隊列を組み山王峠ハイキングに出発する。だが３０分ほど歩いたところで雨が強くなり、その後明日のことを考え登山活動を中止し引き返すことにした。

第２回「山の日」記念全国大会 In 那須　連携イベントを記念

１３時２０分光徳小屋着。自由時間。子ども達は、敷地内を流れる川でサンショウウオの赤ちゃんを捕まえたりして、仲良く遊びだした。

１５時より夕べのつどいを行う。参加者代表に抱負を述べていただき、明日の登頂を誓い合った。すぐに子ども達１５名と夕食の準備に取りかかる。メニューはカレー２種類、ビーフカレー甘口とチキンカレー辛口である。「人参の皮をむく人？　ニンニクのみじん切りをする人？」など募ると、僕も私もと積極的に動いてくれて、あっという間に完成。

１７時より夕食、その後明日の朝食準備に取りかかる。そして、１９時半より星座についての講話を始めた。今年も残念ながら厚い雲に覆われて星座の観察をすることができなかったが、富永講師より、土星について詳しく説明してもらった。講義を終了し、２１時全員就寝。

２３日登山教室２日目、４時に起床し子どもはスタッフと朝食準備。朝食後、とちぎテレビ取材班が合流。６時にスタッフの車６台に分乗し出発、裏男体林道を通り、梵字駐車場に６時１５分に到着。準備体操の後６時４０分全員元気に出発。

第６回目は順番で男体山ファミリーのお母さんに当たる女峰山に登る計画であったが、志津峠への林道が通行止めのため、女峰山登山は断念、手前に位置する大真名子山登山に変更した。大真名子山は、男体山ファミリーの長女にあたり、県内から山容が良く臨まれている山で、信仰の山でもある。

天気は曇りだったが、すぐに小雨が降り出し、雨具を着ける。林道歩きは、あせらずゆっくりのペースで、１時間４０分かけ志津峠に到着。一向に雨の止む気配が無く、全員の意志を確認すると大真名子山の山頂を目指すと言う。８時３０分出発、急勾配が始まる山道のため、気を引き締めて登る。いよいよ日光三険のひとつ「千鳥返し」である。両手足をフルに使い、三点支持で慎重に岩場を登る。

登りきると、風が吹き抜け、男体山ファミリーの雄大な景色が望めた。１０時５５分大真名子山山頂到着。厳しい岩場に死ぬかと思ったとの感想がもれたが、全員安全に登頂を果たせた。雨も降り続き風も当たる悪コンデションのため、短い昼食タイムで

大真名子山 山頂にて！！

記念写真を撮り１１時３０分下山開始。登るより下山の方が困難で、急下降すること２時間あまり、いつの間にか雨は止み、志津峠１３時５０分着。残るは５．１kmの林道歩き。駆けるような早さで梵字駐車場を目指し１５時到着。光徳駐車場に移動し、閉会式を行う。親子登山教室修了証を参加者の子ども達に渡した後、渡邉支部長挨拶、１５時３０分解散した。

今回は２日間とも雨に見舞われたが、目的が果たせ記憶に残る親子登山教室になったと思う。何よりも子ども達が、自分の個性を発揮しながら、階段を一つ昇ったような成長ぶりを見せてくれた。主催する者として感謝と喜びの気持ちで一杯である、ありがとうございました。

# 支部山行・行事の記録

## 春山山行：
## 鶏足山（４３０．５m）

神島 仁誓

平成２９年４月８日（土）
参加者：渡邉，前田Ｆ，石澤，仙石，蓮實，神島，北見，石井，鈴木
ミツマタ鑑賞班：坂口（三），長，早川
見送り：山本，村田
コース：道の駅「もてぎ」集合（８：００集合）＝林道９：００ゲート～稜線分岐９：４０～焼森山９：５０～ミツマタ群生地１０：２０～鶏足山（南ピーク）１０：５０～（北ピーク）１１：４０～焼森山分岐１２：０５～林道ゲート１２：３０＝さかがわ館１２：５０

『道の駅もてぎ』に集合した時には、雨の降り方もひどくて雨音をたてて降っていた。９名の山行班が２台に分乗して出発。下小貫の林道ゲートまで車で行く。雨模様のせいか他の車はない。山道に入ると両側にはイノシシが餌をあさった跡が続いている。県境尾根に出て、焼森山･鶏足山分岐で小休止。雨はすっかりあがったが見晴らしはきかない。

５分ほどで焼森山を通過、ここからはやや急な勾配の登山路を下ることになる。１５分ほどで三叉路に着く。ミツマタ群生地まではほんの数分である。ちょうど見頃で、無彩色の林の中で黄色の花々が宙に浮いているように見える。記念写真を撮り、降りてきた道を三叉路まで戻る。ジグザグ道をたどり稜線に出て鶏足山頂着。小休止後に北ピークに向かう。北ピークは岩稜で見晴らしが素晴らしいはずであったが、雨上がりであいにく眺望は殆どない。昼食をとる。鶏石まで往復する。北ピーク発、南ピーク・焼森山分岐を経由して林道ゲート着。

車に乗り込み、ミツマタ観賞班がいる『さかがわ館』に向かう。ここで全体として解散にする。本来『花の山』に行く予定であったが、「８００円の入園料ほどではない」とのアドバイスを受けて、茂木の町中にある城山に向かうことになる。枝垂れ桜が満開で、またＳＬの蒸気の煙を遠望できるなど山の上からの景色も最高で、素晴らしいフィナーレとなった。渡邉支部長の挨拶をいただいて１４時に解散した。

## 夏山山行・懇親会：
## 奥鬼怒 加仁湯・鬼怒沼山

上田 景子／鈴木 清一

平成２９年８月１９日（土）～２０日（日）
奥鬼怒温泉郷 加仁湯宿泊，鬼怒沼山（2141m）
参加者：渡邉，坂口（三），前田Ｙ，前田Ｆ，山本，上田，菱田，長，鈴木，村田，藤田
１９日 １４時女夫淵集合。バス乗車組とせせらぎ散策組に分かれ、加仁湯に向かう。
２０日 曇り
鬼怒沼班：渡邉，前田Ｙ，上田，藤田

鬼怒沼山班：長、鈴木，村田
加仁湯周辺散策：坂口（三），山本
［鬼怒沼山班］　５：４０出発。日光沢温泉で登山者カードを提出。少し歩くと急な登坂が続いでオロオソロシの滝に着いた。８：５０に鬼怒沼に到着。休憩後、長さんと別れ、木道を鬼怒沼山へ向かった。
９：５５山頂に着いたが残念ながら見晴らしは良くなかった。鬼怒沼に１０：４５に戻ると遥か先で手を振る人がおり、すぐに支部長の渡邉さんとわかった。渡邉さんと別れた後、下山を開始した。
すると白根山の見える展望台から話し声が聞こえ、前田さん、上田さん、藤田さんの女性３名と遭遇した。その後、渡邉さんも合流して皆で昼食を摂つた。　私たち二人は先に下山し１３：０５加仁湯に到着、入湯した。
［鬼怒沼班］　準備体操をして８：０５出発。ゆっくり歩き始めて、日光沢温泉８：２０これから登りになる。渡邉さんは先に行っていただく。私たちも鬼怒沼までを目標として歩くことにする。
オロオソロシノ滝の展望台の一つ先の休憩所で、長さんがもう下山してきた。沼まで行って、沼をぐるぐる回って寒くてじっとしていられず下山したとのこと。１１時《鬼怒沼まで０．９㎞という道標》のところでハイタッチ！下山開始、さきほどの休憩所で鈴木さん、村田さんが元気よく下山してきた。しばらくして渡邉さんも合流、昼食となった。
１３：４０加仁湯に到着。早々に汗を流し、１４時半の送迎バスで加仁湯を後にし、女夫渕駐車場で１５時解散。それぞれ帰途についた。（上田　記）

## 山岳環境保全事業：日光清掃登山

平成２９年７月２日（日）　栃木県山岳連盟と共催
前白根山・奥白根山・五色山他　支部関係者１５名参加

## 山岳環境保全事業：那須クリーンキャンペーン

平成２９年９月３日（日）
栃木県山岳連盟・栃木県勤労者山岳連盟と共催
那須岳周辺（平成の森）　支部関係者９名参加

## 公益事業：第９回ヒマラヤの集い

**演題：『山登りからトレッキングへ』**
**～ネパールトレッキングの楽しみ方～**

猿山　浩

日　時：平成２９年１２月１７日（日）
１５：００～１６：３０
場　所：コンセーレ（栃木県青年会館）　小ホール
主　催：（公社）日本山岳会栃木支部
共　催：（一財）栃木県青年会館
後　援：栃木県山岳連盟
講　師：上杉　純夫　氏
参加者：会員　２０名，一般参加　３８名　計５８名
石澤委員の司会、渡邉支部長のあいさつ・講師紹介により講演会が始まった。
上杉氏は元々登山志向で、トレッキングにさほど興味はなかったということだが、８年連続で毎年ネパールのトレッキングに出かけるようになった。
美しい写真を見せてもらいながら、これまでの豊富な経験からのトレッキングの楽しみ方、ツボを押さえた賢い計画の立て方などを紹介していただいた。ヒマラヤへの気持ちを掻き立てられる素晴らしい講演であった。講演後、上杉氏を囲んでの栃木支部の忘年会を兼ねた懇親会が開かれた。

## 冬山山行：足利　赤雪山(621m)～仙人ヶ岳(663m)

上田　景子／仙石　富英

平成３０年１月２１日（日）　晴
参加者：渡邉，前田Ｆ，石澤，上田，仙石，長，早川，石井，鈴木，君島，村田，東
予定より前には松田川ダムメモリアル広場駐車場９時集合。登山口からヒノキ林の中をジグザグであるが、ほぼ直登。赤雪山 10:25 着。立派な休憩所がある。足利の街、行道山、大岩、織姫の山容がよく見える。
これより 4.2 キロ、松田川ダムの周囲を巡る山並みは長い。北方に小さくて丸い富士山のような山を何かと問えば、老越路峠の多高山ではないかと鈴木さんの答え。砕けた石の山道はぐるぐる石が動いて歩きづらく、黙々と歩く。葉を落とした木々の間から向こうに男体山が！！！栃木の山のシンボルは男体山なのだ。
仙人ヶ岳頂上 13:30 着。やっと昼食、とはいえ下山が気がかり、そこそこで出発。知の岳を通過し、

松田川ダムへ向かって一気に急降下。ストックと周りの木々に助けを借りて下山する。キャンプ場から道路を通って駐車場へ 16:30 解散。

万歩計をみれば、20254 歩。屋久島の花の江河から宮之浦岳を通って新高塚小屋までの歩数とほぼ同じだった。ちょっとハードな行程を歩いた！と思われる山行だった。足利にはこのように似たコースがある。湯殿山のぐるり、天狗山のぐるりなど。（上田記）

## 北関東ブロック（千葉・茨城・群馬・栃木）四支部合同懇談会（栃木支部主管）：塩原温泉・栃木百名山 新湯富士

石澤 好文

期　日：２０１８年２月１７日（土）～１８日（日）
場　所：受付・講演会場　那須塩原市塩原公民館
宿　泊：塩原温泉「明賀屋本館」
参加者：千葉支部　三木支部長 以下１０名
茨城支部　浅野支部長 以下　４名
群馬支部　北原支部長 以下　５名
栃木支部　渡邉支部長 以下１５名

【２月１７日（土）】 雪

● １３時半～ 開会式，渡邉支部長挨拶
各支部活動報告

● 講演会（１４：３０～１６：３０）
演題：「ツキノワグマ未知の姿」
講師　横田 博 氏
～２７年間足尾の山中で
熊を取材続けた
素晴らしい記録～

横田 博 講師

横田氏の話術に引き込まれ２時間があっと言う間に過ぎてしまった。

講演会終了後、本日の宿泊先「明賀屋本館」に移動する。

●夕食・懇親会（１８：００～２０：１０）

１８時より、渡邉支部長の挨拶、そして坂口氏の乾杯で夕食･懇談会を開始する。歓談のなか自己紹介をして頂く。最後に次期開催県三木千葉支部長より中締め、２０時１０分盛会のうちに夕食・懇談会を終了し二次会に移った。

二次会

【２月１８日（日）】 曇 → 晴

● 登山班：新湯富士（１１８４．２m）山行
参加者：ＣＬ石澤，ＳＬ前田Ｆ，吉永，三木，
三田（博），三田（芳），山口，根本（規），
根本（路子），齋藤，荒木，小野里，黛，
根井，渡邉，内間，仲畠，鈴木，村田
計１９名

７時に朝食をとり、登山班は宿を出て塩原公民館の駐車場で４台の車に分乗し、出発する。

昨日からの雪が残り日塩道路で、スリップする車が有り大渋滞になる。通常だと３０分もかからないところを、１時間３０分ほどかかって新湯温泉神社Ⓟに１０時に到着する。新湯富士山頂までは行くことができないので、１１時３０分までに行けるところまで行って引き返すことにして１０時１０分出発する。

昨日の雪が２０ｃｍほど積もっておりラッセルに苦労する。２回ほど休憩し１１時３０分新湯富士手前の１１４７ｍピークに到着する。ここを最

１１４７ｍピークでの記念撮影

終到達点にし、記念写真等を撮り１１時５０分下山を開始する。このあたりから天候が回復し晴れ間も見えてくる。

１２時３０分新湯温泉神社Ⓟに到着。那須塩原公民館駐車場１２時５０分着。

● 観光班：木の葉化石園・昼食「釜彦」
参加者：Ｌ上田，浅野，奥井，柳下，神山，吉田，
鈴木，坂口，前田Ｙ，長　　計１０名

９時宿を出て、それぞれの車で塩原公民館駐車場に向かう。木の葉化石園着９時２０分。化石園では私たちのために雪かきをして、道を作ってくださっていた。このような学術的な博物館は子供のころの授業のようなもので、人類の歴史と比較しながら、浅野支部長が説明を読まれていたのは印象に残った。

１０時２０分、少し早いが、スープ入り焼きそば、「釜彦」へ。昼食後公民館に戻る。（上田記）

予定通り１３時に登山班と観光班が駐車場で合流、渡邉支部長の閉会挨拶の後解散する。

# YOUTH 栃木：雪崩勉強会

昨年の那須雪崩事故をふまえ、積雪期登山に必要な「雪崩」に対する知識と技能の習得を目的に昨年度「雪崩勉強会」を奥日光湯元で開催した。基本知識～リスク評価～遭遇対応の系統立てた講義と実習は、この三つがそろって実際に役に立つことが理解できる、内容の濃い勉強会となった。

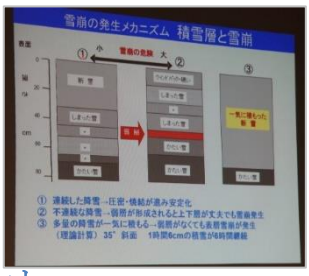
勉強会で国立登山研修所の講師２名を招くにあたり、日本山岳会の特別事業補助金を活用させていただいている。この活動は北関東ブロックや県山岳連盟に広く案内し、栃木・群馬支部や本部会員の外１９名が参加した。その交流は日本山岳会の活性化につながると期待される。

前田　文彦

期　日：平成３０年２月２４日（土）～２５日（日）
受付・講義会場：日光湯元ビジターセンター
実技講習会場：日光湯元ビジターセンター屋外
　　／日光白根山登山口付近
宿　泊　：　奥日光 湯元温泉「湯の湖荘」
講　師：
　主任講師 飯田 肇 氏（立山カルデラ砂防博物館）
　実技講師 杉坂 勉 氏（国際山岳ガイド）
参加者：日本山岳会：栃木支部（５名），
　　群馬支部（２名），他２名
　栃木県山岳連盟：宇都宮白峰会（３名），
　　黒磯山岳会（１名），矢板岳友会（４名），
　　本田技研栃木山岳部（１名），
　日光湯元ビジターセンター（１名）
日　程　：
【１日目】　２月２４日（土）　雪
日光湯元ビジターセンター及び屋外
12:00～17:00　受付／開会行事／講義・実習
　講義Ⅰ　「雪氷学の基礎」
　講義Ⅱ　「雪崩埋没者の捜索と救助」
　　テキスト：「雪崩教本」（山と渓谷社）
　実習Ⅰ　「積雪層の断面観測と弱層テスト」
終了後、宿舎「湯の湖荘」に移動，夕食後参加者による情報交換会を行った。
【２日目】　２月２５日（日）　晴
日光白根山登山口付近
8:00～12:30　班別実習／閉会行事
　実習Ⅱ　「積雪層の断面観測と弱層テスト」
　実習Ⅲ　「雪崩トランシーバーの使用」
　実習Ⅳ　「コンパニオンレスキュー」
湯の湖荘に戻り閉会行事、現地解散とした。

**《参考：気象データーの可視化》**
山岳特有の地形による局地的な気象現象は再現できないが、その地域のおおよその気象の特徴を直感的に理解することができる。
Ｗｉｎｄｙ：https://www.windy.com/

■講義と実習の内容




① 積雪と雪崩
　--- 基本的知識の理解
- 降雪と気象：
  着目すべき気象要素
- 積雪とその変化：
  弱層の種類と特徴
- 雪崩の発生メカニズム
- 雪崩の分類

② 雪崩リスクマネージメント
　--- 条件がそろえばいつでも起こる
　　雪崩に遭わないための適切な評価と行動
- 雪崩リスク：ハザード（潜在的要素）／暴露（その場に入る）／脆弱性（雪崩に対する対処能力）
- ハザード評価と用いる情報：地形要素・気象要素
- その場に入る行動の意思決定：人的要因の認識
- 積雪観察とその手法：硬度の観察，弱層テスト
  → 積雪の安定性評価：初期破壊の起こりやすさと伝搬性から、積雪安定性を五段階評価

③ 雪崩サーチ＆レスキュー
　--- それでも雪崩に巻き込まれたときに
　　事故に対する装備やレスキューの方法
- 雪崩に遭遇したら（セルフレスキュー）
- 雪崩埋没者捜索（コンパニオンレスキュー）

▮雪崩埋没者捜索のセオリー
・捜索に入るエリアはまだ危険だと言うことを認識
・事故が起きたら警察に（まず）一報を発信

▮雪崩埋没者捜索の五段階
1．状況分析 → 捜索方針決定・組織化
・役割：リーダー，パトロール，ビーコン捜索者，サポート役
2．プライマリーサーチ：消失点から下方に捜索
・リーダーは捜索開始の指示：サーチモードへの指示と確認
・パトロールは雪崩の末端まで先行して下降：雪崩規模，未埋没者，遺留品の確認
・ビーコン捜索者は遺留品が無いか確認しつつ、捜索
3．セカンダリーサーチ：埋没エリアを絞り込み
4．ファイナルサーチ：埋没者の位置を特定
・埋没の可能性が高い範囲を決めてプロービング
5．埋没者の掘り出し（シャベリング）と応急処置
・保護，傷病者評価，救命処置，組織レスキューへの引き継ぎ
・レスキューの終了，事後処理（救助者としての情報提供）

積雪断面観察
（飯田講師）

ファイナルサーチ
（杉坂講師）

# 支部・マスターズ・ユース栃木年度記録

## 平成２９年度支部通常総会

期日　平成２９年５月２８日
会場　コンセーレ（栃木県青年会館）
参加者　会員２２名

支部長挨拶　　支 部 長　渡邉雄二

３月２７日の高校生那須岳雪崩事故は残念の限り。６月末には検証委員会の中間報告がでるであろう。心より哀悼の意をあらわしたい。当事者の心のケアが一番大切。さて昨年は本支部創立１０周年の記念式典を実施することができた。浄財も多く寄せられ、余剰金については周年記念行事の積立金としたい。本年度は８月１１日の第２回山の日全国大会が那須で行われる。全国から沢山のお客を招くので支部会員にも是非参加していただきたい。本支部としてはファミリー登山教室を那須岳で実施することになる。次の１０年にむけての提案もあるので、よろしくご審議ください 」との趣旨の挨拶があった。

第1～７号議案すべて審議・承認され、閉会した。

## 平成２９年度実施支部行事一覧

| 事業 | | 期日 | 場所 | 内容 |
|---|---|---|---|---|
| 共益事業 | 春山山行 | ４月８日 | 鶏足山 | 登山と懇親 |
| 共益事業 | 支部通常総会 | ５月２８日 | コンセーレ | 総会 |
| 共益事業 | 栃木支部報発行 | | － | 支部報（第１０号）発行 |
| 公益事業 | 「山の日」記念全国大会連携イベント「山」の講演会（コンセーレとの共催） | ６月２５日 | コンセーレ | 登山の文化や環境保全の講演会 |
| 公益事業 | 日光清掃登山（栃木県山岳連盟との共催） | ７月２日 | 奥日光周辺 | 奥日光の清掃 |
| 公益事業 | 栃木県「山のグレーディング」作成（栃木県山岳遭難防止対策協議会の作業部会に参加） | １月～７月末 | － | 栃木県内登山コースのグレーディング |
| 公益事業 | 「山の日」記念全国大会連携イベント親子登山教室（栃木県山岳連盟との共催） | ７月２２～２３日 | 学習院光徳小屋・大真名子山 | 奥日光でのキャンプと登山活動 |
| 共益事業 | 夏山山行と懇親会 | ８月１９～２０日 | 奥鬼怒温泉加仁湯及び周辺 | 登山と懇親会 |
| 公益事業 | 那須岳クリーンキャンペーン（栃木県山岳連盟・栃木県勤労者山岳連盟との共催） | ９月３日 | 那須岳周辺 | 那須岳周辺掃除 |
| 公益事業 | 「山の日」記念全国大会連携イベント安全登山のためのファミリー登山教室ｉｎ那須［中止］（主催：栃木県「山の日」協議会） | ９月３日 | 那須岳周辺 | 安全登山の講義と登山活動 |
| 共益事業 | 秋山山行［中止］ | | | 登山と懇親 |
| 公益事業 | ヒマラヤの集い（コンセーレとの共催） | １２月１７日 | コンセーレ | 海外登山の報告 |
| 共益事業 | 冬山山行 | ２０１８年１月２１日 | 赤雪山 | 登山と懇親 |
| 共益事業 | 四支部合同懇談会（栃木支部主管） | ２０１８年２月１７～１８日 | 塩原温泉明賀屋及び周辺 | 四支部（栃木・茨城・千葉・群馬）懇談会と登山 |
| 公益事業 | ユース栃木「雪崩」勉強会（特別事業補助金事業） | ２０１８年２月２４～２５日 | 奥日光湯元湯の湖荘及び周辺 | 「雪崩」に対する知識と技能の習得 |

役員会を７回開催した（４月，５月，６月，８月，１２月，１月，４月）。

## 《平成２９年度 マスターズクラブ 山行報告》

マスターズクラブでは、支部会員同士の健康のため栃木百名山の山行を継続して行った。

平成２９年
５月　屋久島宮之浦岳（１９３６m）　６名参加
６月　高山（１６６８m）　６名参加
７月　日光清掃登山（支部行事）　３名参加
９月　千部が岳（５７２m）　１２名参加
１１月　中禅寺湖半周　４名参加
　　大鳥屋山（６９３m）
　　・岳の山（６２４m）　６名参加
１２月　湯殿山（３９８m）　９名参加
平成３０年
３月　谷倉山（５９９m）　９名参加

健康のための登山のつもりが、最近はちょっと高度なところ、困難を求めて、雪山や長い距離の山を選び、喜びを感じたい、そんな気持ちが出てきた。自分の技量もないのに、高望みかもしれないが、何度も行って体で覚えることが一番いいのではないかということも考えられると思う。

また、ある一つの山を選んで、山の研究(植物、動物、鉱物、登山路など)四季折々登山してその山を知る、そのようなことができたらいいのではないか？と思っている。　（上田記）

## 《平成２９年度 ユース栃木 山行報告》

ユース栃木として二事業を実施した。

① 平成２９年４月１５～１６日
谷川岳虹芝寮スプリングミーティング
参加栃木支部・群馬支部他７名。

② 平成３０年２月２４～２５日
雪崩勉強会（日光湯元で開催）
栃木・群馬支部や本部会員の外、県山岳連盟会員など参加１９名。

# 支部・マスターズ・ユース栃木年度計画

## 平成３０年度支部行事（案）一覧

| 事業 | | 期日 |
|---|---|---|
| 共益事業 | ユース栃木 虹芝寮スプリングミーティング | ４月１４～１５日 |
| 共益事業 | 支部通常総会 | ５月２６日 |
| 共益事業 | 栃木支部報発行 | |
| 公益事業 | 栃木県「山のグレーディング」作成<br>（栃木県山岳遭難防止対策協議会の作業部会に参加） | ５月～７月末 |
| 公益事業 | 日光清掃登山（栃木県山岳連盟との共催） | ７月１日 |
| 公益事業 | 栃木県「山の日」関連ベント（申請予定）<br>光徳親子登山教室（栃木県山岳連盟との共催） | ７月１４～１５日 |
| 公益事業 | 安全登山のためのファミリー登山教室ｉｎ那須<br>（主催：栃木県「山の日」協議会） | ８月１９日 |
| 共益事業 | 加仁湯夏山懇親会 | ８月<br>２５～２６日 |
| 公益事業 | 那須岳クリーンキャンペーン<br>（栃木県山岳連盟・栃木県勤労者山岳連盟との共催） | ９月２日 |
| 公益事業 | 栃木県「山の日」関連ベント（申請予定）<br>「山」の講演会（コンセーレとの共催） | 秋［予定］ |
| 共益事業 | 秋山山行 | １１月［予定］ |
| 公益事業 | 栃木県「山の日」関連ベント（申請予定）<br>ユース栃木 「読図とナビゲーション」勉強会 | 秋または冬［予定］ |
| 共益事業 | 冬山山行 | 平成３０年１月<br>［予定］ |
| 共益事業 | 四支部合同懇談会（千葉支部主管） | 平成３０年２月<br>［予定］ |

《事業委員会》では、支部の会員相互の親睦と充実した活動を支えるため山行や懇親会などの共益事業と、一般県民等への参加を呼びかけて、親子登山教室や講演会などを開催し、登山への普及と安全登山の推進のための公益事業の計画立案とその運営を行います。各事業はこれまで以上の安全確保が求められてきています。各会員には、各事業の運営への協力をよりお願いいたします。

《自然保護委員会》では、今年度も県山岳・スポーツクライミング連盟と共催で、日光清掃登山を７月１日（日）に開催します。また、県山岳・スポーツクライミング連盟及び県勤労者山岳連盟と共催で９月２日（日）に那須クリーンキャンペーンを開催します。皆様にはお誘い合わせのうえ、多くの参加をお待ちしています。

## 栃木県「山の日」関連イベント

**■安全登山のためのファミリー登山教室ｉｎ那須**

（栃木県「山の日」協議会主催）

栃木県山岳連盟，栃木県勤労者山岳連盟，日本山岳会栃木支部の栃木県山岳三団体で行います。

８月１９日（日）　なす高原自然の家（講義）
那須茶臼岳周回コース／茶臼岳山頂廻りコース／那須朝日岳登頂コースの３コースを予定。

## 《平成３０年度 マスターズクラブ 山行計画》

平成３０年
　４月　古賀志山
　５月　丹勢山（１３９６ｍ）
　６月　女峰山（２４８３ｍ）
１１月　小田代、戦場ヶ原散策
１２月　三峰山
平成３１年
　３月　鎌倉山（２１６m）・伊許山（１６２ｍ）
他、支部行事の「日光清掃登山」，「夏山懇親会」，「那須クリーンキャンペーン」，「秋山山行」，「冬山山行」，「四支部合同懇談会」に参加予定。

## 《平成３０年度 ユース栃木 山行計画》

下記の２事業を実施する計画。
・虹芝寮スプリングミーティング：栃木支部内外の岳人との交流と登山（４月）
・「読図とナビゲーション」勉強会：　登山に関する知識と技能の習得（秋または冬を予定）
他、高校山岳部活動や若き岳人を対象として支部の活性化をはかる活動を推進する。

## 平成３１年 第３５回全国支部懇談会は栃木県日光で行います

**期日：平成３１年（２０１９年）**
**５月２５日（土）～２６日（日）**

**宿泊：日光アストリアホテル**

**講演（予定）：「日光学 聖地日光へ（仮題）」**
**飯野達央 氏**

※ 具体的な内容は、今年７月末の北海道全国支部懇談会で御案内する予定です。

# YOUTH 栃木：
# 虹芝寮スプリングミーティング ２０１８

芝倉沢にある素晴らしい成蹊学園の虹芝寮を拠点に、成蹊踏高会や栃木支部内外の山仲間とストーブを囲みながらの団欒と山行を楽しむ栃木支部の４月谷川岳山行は、２０１４年から始まり５年目となりました（２０１６年からユース栃木の行事)。今年は栃木・群馬・東海各支部他から９名が集まり、天候不良とブロック雪崩のリスクを考慮し山頂には立てませんでしたが、芝倉沢を登りスキーを楽しみました。

前田 文彦

平成３０年４月１４日（土）～１５日（日）
成蹊学園虹芝寮／芝倉沢～一ノ倉岳スキー登山
参加者：９名。
　栃木支部：渡邉，前田
　群馬支部：北原，荒木，根井，山邊
　東海支部：片岡　　，首都圏：梶
　成蹊踏高会：佐藤

【１日目】曇，夜→雨：土合山の家集合１３時，
　　出発１３時半～虹芝寮１５時半着

天気は雨･風ともに大荒れとなる予報の中、参加者は土合山の家に集合した。雨が降り出す前に虹芝寮に着こうと、出発。例年だと土合橋の先からスキー着用が可能となるのだが、今年は雪解けが早く、論外であった。雪の上を渡れるマチガ沢･一の倉沢･幽ノ沢もストックを巧みに使って徒渉。まるで五月連休明けの様相だとの言葉も出る。斜面からのブロックデブリの横を通りながら、虹芝寮に到着した。

小屋を開け、ストーブに火を付け、一息ついたところで団欒が始まると同時に晩飯の支度を開始。静岡のお酒や地元群馬のワインなど差し入れも多く、また鍋料理の分量も多かったせいか、満腹となりご飯は炊かずに済ましてしまった。

虹芝寮での団欒

日本山岳会のナンダデヴィとカンチェンジュンガを率いた梶さん、大阪市立大ランタンリルンとカンチの片岡さん、地質・トンネルの専門家の北原さんなど山歴の深い今回のメンバー、色々な話が進む。

暗くなると雨が降り出し、風の音も聞こえる中、明日の朝には雨風が収まらないかと淡い期待を抱きつつ眠りについた。

【２日目】小雨・曇：虹芝寮出発６時半～芝倉沢
　　標高１１００m到達点７時半，
　　８時下山開始～虹芝寮８時半過ぎ着，
　　出発１０時１５分
　　～土合山の家１２時着，１２時半解散

朝起きると風も弱く小雨、芝倉沢を行けるとこまで登ろうと言うことになった。昨日の歩行でスキーブーツのソールが剥がれた（年代物は要注意）北原さんは小屋にとどまり、残り８名でスキーと歩行それぞれ思い思いに出発。

所々地肌が出ているため、スキー班は迂回したりすることになり、歩行班とさほど時間は変わらない。いくつかの大きなデブリの横を通り、芝倉沢本流上はかなり汚れている。旧道出合を通過、およそ

標高１１００ｍの地点迄登り、上部の視界不良とブロック雪崩のリスクを考慮して、ここまでとした。
　下り始めたらあっという間に虹芝寮にもどり、「来たときよりも少しきれいに」の虹芝寮ポリシーのもと、清掃・整頓作業。戸締まりをして下山。天候が回復しつつある土合山の家に着いて解散となった。

下山開始：ご苦労様でした

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

## 《栃木支部ホームページ開設しました》

ＵＲＬ：
http://jac.or.jp/tcg/index.html

日本山岳会会員外も閲覧できるＨＰです。
支部活動の案内と報告を掲示します。

※「支部会員ページ」と「支部アーカイブ」は支部会員限定ページです。“ユーザー名”と“パスワード”が必要となります。

## 《支部会員 Archives》

１９８２年当時の日本山岳会集会委員会の仲間と韓国の岳人と登った韓国雪岳山の蔚山岩（ULSAN-BAWI 873m）。皆で正面の壁を何本か登り、楽しんできた。
東草空港に着いたら、兵士がフレンドシップを取り囲み、周りの草むらに向けて銃を構えたこと。
蔚山岩の頂上から見える日本海イカ釣り漁船の夜景。
帰りの半島横断バスで、ソウルに下る峠の検問で乗り込んできたＭＰの紳士的な振る舞いと鋭い眼光。
いまだに覚えている懐かしい記憶です。

（前田文彦）

## ☆☆あとがき☆☆

- 昨日（20日）県高体連の研修会が開かれ、TVや新聞などで報道されている。地図の読み取り方や安全登山の心構えを学んだとのこと。
- 20代の頃、登山計画書の概念図は、何がポイントか？どのように表現しようかと、地図から手書きで作った。
- 今は地図をコピー・ペーストで線を書いて済む時代。地図を読まなくても、完成。登山情報が身につかない。
- 「読図」知識だけでは、安全な登山は遂行できない。現場での「判断力」、事態への「対処力」。雪崩勉強会と同じ様に、常にスキルUPと維持が必要です。
- 今年「読図とナビゲーション」勉強会を開催予定です。参加をお待ちしています。

ハクサンシャクナゲ

**栃木支部報　第11号**　平成30年（2018 年）5月25日発行

発行者　栃木支部長　渡邉　雄二
編集人　前田　文彦
発行所　（公益社団法人）日 本 山 岳 会　栃 木 支 部
〒329-0434 栃木県下野市祇園5－12－10 前田方